

千葉商工会議所景気動向調査

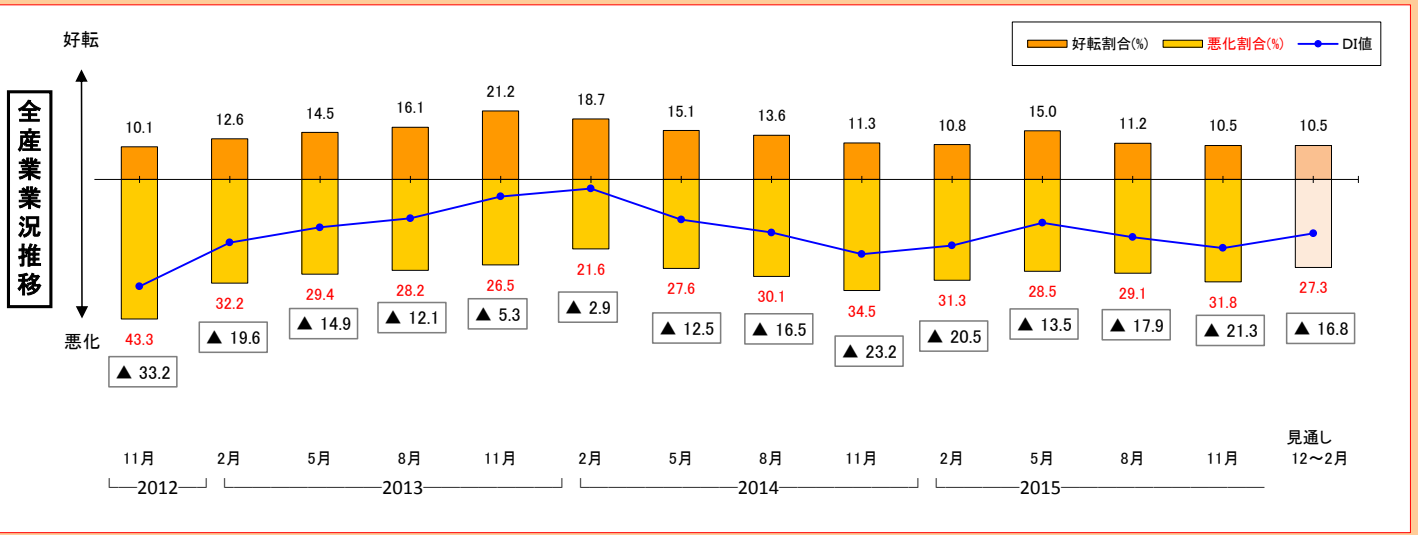
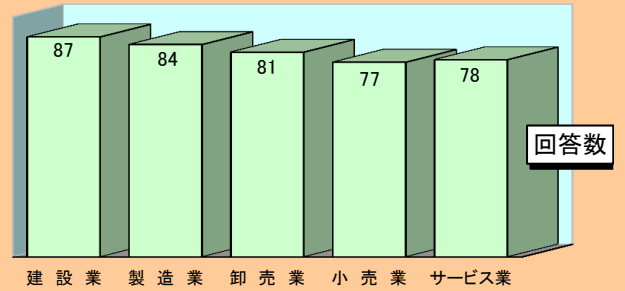
……平成27年11月期調査結果報告……

調査期間：平成27年11月19日(木)～11月30日(月)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 407社 回答率 81.4%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がり意味着。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体の特徴】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成27年8月、以下同じ)と比較して、建設業が上昇したものの、他の4業種で下降した結果、全産業合計DIは3.4ポイント下降して▲21.3となり、2期連続の悪化となった。また、向こう3ヶ月(12月～2月、以下同じ)の先行き見通しは、建設業・製造業・サービス業で下降する見通しであるものの、卸売業・小売業で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より4.5ポイント上昇の▲16.8となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、全業種で下降した結果、全産業合計DIは4.8ポイント下降して▲16.5となり、2期連続の悪化となった。一方、向こう3ヶ月の先行き見通しは、卸売業・サービス業で下降する見通しであるものの、他の3業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より5.1ポイント上昇の▲11.4となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、サービス業が上昇したものの、製造業では横ばい、他の3業種で下降した結果、全産業合計DIは2.8ポイント下降して▲20.4となり、4期ぶりの悪化となった。また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、製造業・サービス業では下降する見通しであるものの、他の3業種で上昇の見通しとなっており、全産業合計DIは現状より1.5ポイント上昇の▲18.9となっている。

全体を総括すると、前回調査に引き続いて業況が好転・不変と回答した企業が減り、悪化と回答した企業が増えた結果、景況感は2期連続の悪化となった。仕入単価DIは2期連続で改善したものの、不変と回答した企業が増えたことが主な要因であることに留意が必要。人手に関しては、不足と回答する企業が増える結果となり、各業界で人手不足の状況が強まっている。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは1.6ポイント上昇して▲8.3に、売上DIは4.4ポイント下降して▲10.6に、採算DIは3.9ポイント下降して▲15.0となった。業況DIは2期ぶりに改善し、売上DIは2期連続、採算DIは3期ぶりの悪化となった。向こう3ヶ月の先行き見通しでは、業況DIは現状より下向くが、売上DI・採算DIはともに上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「慢性的な施行員不足が続いている」「民間の設備投資は活況な状況にない」「人材の確保のため、賃金や週休2日制の定着など労働条件の向上に業界全体での取組が重要」などの声があった。

【調査結果のポイント】景況感は2期連続で悪化。人手不足の傾向は依然として続く。

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧ください。
<http://www.chiba-cci.or.jp/>

